

あすなろ

2024年7月18日

みみレター

第4号

兵庫県立姫路聴覚特別支援学校

校内支援部 (文責 栗原)

よしざわりょう えん ものがたり 吉沢亮さん演じた「コーダ」の物語

げんさくしゃ さっか つた おも 原作者の作家が伝えたかった思い

みやぎけんしおがまししゅっしん さっか いがらしまさる ちよしよ げんさく みみ き りょうしん もと そだ
宮城県塩釜市出身の作家・五十嵐大さんの著書を原作に、耳の聞こえない両親の元で育った
こ かつとう せいちょう えが えいが い せかい がつ にち ぜんこくこうかい
子どもの葛藤や成長を描いた映画「ぼくが生きてる、ふたつの世界」が、9月20日に全国公開され
る。原作は五十嵐さんの著書「ろうの両親から生まれたぼくが聴こえる世界と聴こえない世界を行き
げんさく いがらし ちよしよ りょうしん う き せかい き せかい ゆ
来して考えた 30 のこと」(幻冬舎)。耳の不自由な両親の元で生まれた聞こえる子ども
き かんが げんとうしゃ みみ ふじゅう りょうしん もと う 生まれた き こ
(Children of Deaf Adults)、通称「CODA(コーダ)」だった五十嵐さんは、特に先天性の聴覚
しょうがいしゃ はは む あ かた なや
障害者の母との向き合い方に悩んだ。

しょうがいしゃ かぞく しゃかい
障害者やその家族は社会から「ふつうではない」というまなざしにさらされる。「ふつうになりた
ねが しょうねんじだい はは だいす はは い きず かつとう
い」と願った少年時代。「母が大好きなのに、母にひどいことを言って傷つけてしまう」という葛藤の
ひび かくとう まいにち ひょうげん にちじょう せかい せんさい さくひん
日々を「格闘の毎日」と表現し、コーダの日常の世界を繊細につづった作品だ。

ストーリー

みやぎけん ちい みなとまち みみ
宮城県の小さな港町。耳のきこえな
りょうしん あい そだ いがらしまさる おさな ころ
い両親のもとで愛されて育った五十嵐大。幼い頃から
はは つうやく たの にちじょう
母の“通訳”をすることも“ふつう”の楽しい日常だった。
しだい まわ とくべつし とまど
しかし次第に、周りから特別視されることに戸惑い、
いらだち はは あか うと ころも あま
苛立ち、母の明るささえ疎ましくなる。心を持って余したま
はたち に どうきょう たびだ
ま20歳になり、逃げるように東京へ旅立つが…

「会話禁止」の喫茶店、注文は筆談で

「静寂」空間がじわり人気

喫茶店だが会話は禁止で、注文は筆談——。こうしたルールで店内の「静寂」にこだわる店の人気がじわりと広がっている。雑音にあふれた日常を離れ、「ちょっと一息」を求める人たちに支持されている。

大阪・梅田のほど近くに4月、ひっそりと開店したカフェ「清浄」。店内に入ると、「音は使わず」と書かれた手のひらサイズのカードを店員から提示される。注文はメニューを指さすか、席に置かれたノートに書いて伝える。手話を使って店員とやり取りする客もいる。ノートには、店員と客が筆談で交わした「会話」がずら

り。「どこから来られましたか?」「神戸から来ました」…客同士がイラストを描きあって、黙ったまま「絵しりとり」で遊んだページも残っている。

開店のきっかけは、店主の松本晴夏さん(28)が2018年、ベトナムで聴覚障害者が働く「音を使わない」カフェを訪れたこと。聞こえるのは店員の足音と、ポタポタと垂れる雨音。「静寂の心地よさと、いきいきと働く店員さんに触れ、どちらも多くの人に知ってもらえないかと考えた」という。

「清浄」の従業員15人も、多くが聴覚障害者である。アルバイトの中村桐矢さん(20)は感音性難聴で、両耳がほとんど聞こえない。中村さんが考える店の魅力は、「ストレス社会でほっと心が休まる体験ができる」こと。接客には手話も採り入れ、「何げなく、ろう文化を知ってもらえる良い機会にもなると思う」と中村さんのコメント。ぜひ、夏休みに訪れてみてはいかがでしょうか。

出典：朝日新聞デジタル



ほ ちよう き てん らい こう び

補聴器店 来校日

< 13:10~ 通級教室 >

9月

□神戸ヒヤリングセンター	9月12日(木)	9月26日(木)
□トーンシン姫路補聴器センター	9月6日(金)	9月20日(金)

補聴器の故障や買い替え、作E-ル[®]の作り替えの際は、補聴器店 来校日を確認して、担任にお申し出ください。